

天声人語

「なぜ米国要人が広島まで出かけて原爆投下を謝るのか。そういう非常識な連中をオッドボルと呼ぶんだ」。数年前、米国の基地の街で80代の元米陸軍中佐に言われた。オッドボルは変わり者、偏屈な人を指す。きつい言葉だ▼原爆は日本の降伏を早め、日米何百万人もの命を救つた――。投下を正当化するこの論理は、残念ながら米国では一般にもなお支持されている。日本からみれば核廃絶は未来に向けた悲願だが、米国は過去の蒸し返しと受けとめる▼大統領選さなかの来週、ケリー米国務長官が広島を訪れる。被爆地訪問による米国内での政治的リスクを思えば、決断には改めて敬意を表したい▼さてケリー氏は被爆心地のどこを訪れるだろう。過去に訪問した各国の要人は原爆ドーム見学、慰霊碑への献花、被爆者との対話、平和記念資料館訪問などから慎重に組み合わせを考えた。被爆証言をじっくり聴く人もいれば、駆け足で滞在20分という人もいた▼資料館の志賀賢治館長(63)によると米国からは過去に大統領が2人訪れている。大統領になる前のニクソン氏と、大統領を退いたあとの Carter 氏だ▼ならばオバマ大統領には在任中にお越しいただきたい。プラハ演説で「核兵器のない世界」を訴え、早々にノーベル平和賞を受けたにしては核問題で実績が乏しい。政治的に不安なら、11月の大統領選の後はどうか。任期は来年1月まで。キューバとの国交正常化に勝るとも劣らない功績になると思うが、どうだろう。

2016・4・8